

Title	大手都市銀行におけるトップマネジメント選抜基準の研究
Sub Title	
Author	原田豊正(Harada, Toyomasa) 森川英正
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第868号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0868

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

原田 豊正
(宇部興産株式会社)

主査 森川 英正
副査 関本 昌秀
小野桂之介

所属

森川 英正 研究室

大手都市銀行におけるトップマネジメント選抜基準の研究

本論文は、専門経営者が支配する経営者企業に於けるトップマネジメントの選抜基準を実証研究することにより、トップマネジメントへの到達者の客観的特性やその変遷、企業別特性を探ろうとしたものである。

具体的には、株式会社三井銀行、株式会社三菱銀行、株式会社住友銀行、株式会社富士銀行、株式会社三和銀行の大手都市銀行5行を対象企業とし、各行の戦後から1990年までに常務取締役以上の役職に到達した者(460名)について調査、分析した。

研究の結果、トップマネジメントの選抜過程に関して、次の事実が明らかとなった。

- (1) 入社年次を基準とする昇格の厳格化
- (2) 東京大学を頂点とする強固な学閥支配
- (3) 本社スタッフ部門の優位化
- (4) 大阪の地位の低下
- (5) 国際部門の専門畑化

また、対象各行の体質については、次の様な印象を持った。

三井、住友、三和は戦後の混乱期を長期政権で乗り切ったが、保守的な三井は長期政権的体質を維持し、大阪の地位低下に直面した関西系は躍動的となった。三菱は保守的であるが、極めて官僚的である。富士は独自路線を採っているが、官僚化が進行中である。